

# 中学校国語

A問題 平均正答率：74%（全国：77.4%） 平均無解答率：2.9%（全国：2.4%）

B問題 平均正答率：68%（全国：72.2%） 平均無解答率：5.1%（全国：3.8%）

## 結果チャート

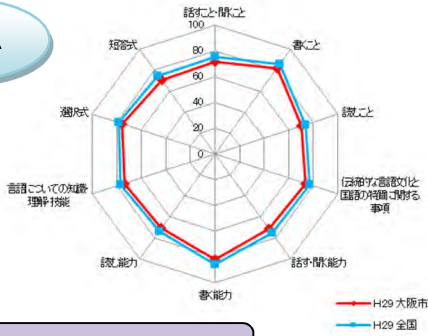
### 領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

A問題では、「読む能力」「話す・聞く能力」等の項目で低い値を示しています。

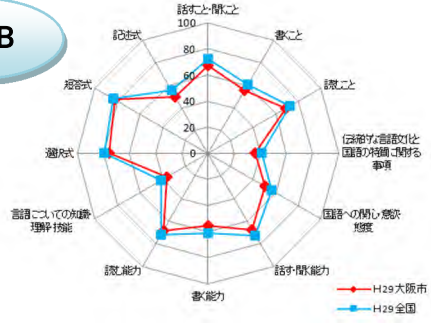
平均正答率及び平均無解答率については、P.2の表を参照のこと。

B問題では、「言語についての知識・理解・技能」「書く能力」「記述式」等の項目で低い値を示しています。

### 国語A



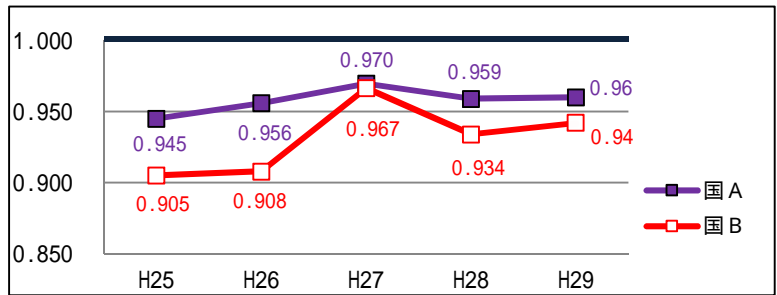
### 国語B



## 対全国比経年比較

対全国比については、悉皆調査の平成25, 26, 27, 28, 29年度を取り上げています。

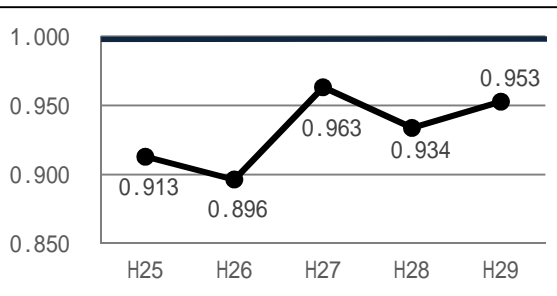
グラフは、全国の平均正答率を1としたときの国語A・国語Bの大阪市の割合を表したものです。



## 「読むこと」にがんばりが見られます

国語B「読むこと」領域の問題にがんばりが見られます。

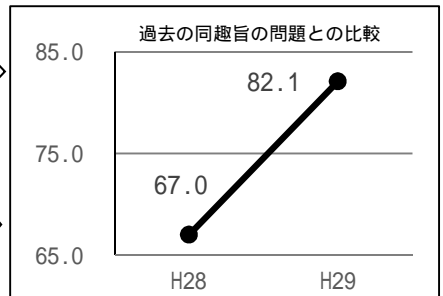
### 国語B「読むこと」領域の問題の対全国比



### 展開や描写に注意して読み、内容を理解する問題の正答率

【H28】物語の展開に沿って登場人物の様子を並べ替える問題（B3一）

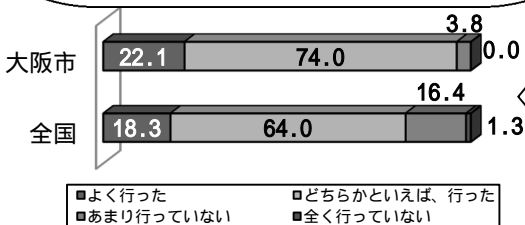
【H29】地の文にある言葉を発した人物を文章の中から抜き出す問題（B1二）



子どもたちのがんばりにつながるていねいな指導が行われています。

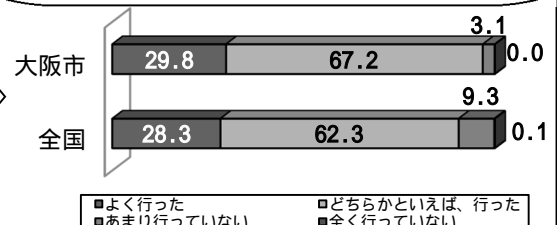
学

国語の指導として補充的な学習を行った  
（肯定的回答 大阪市:96.1% 全国:82.3%）



学

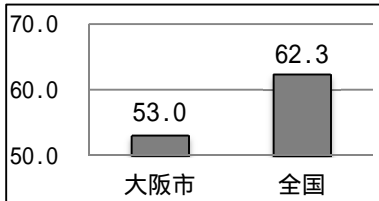
様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った  
（肯定的回答 大阪市:97.0% 全国:90.6%）



肯定的な回答が全国を上回っています

## 日常的な漢字を書くことに努力が必要です

### 文脈に即して漢字を書く問題の正答率

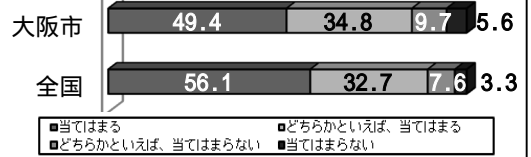


漢字を書く問題  
(雨で運動会がエンキになる)(A[9]-2)

肯定的な回答が全国を下回っています

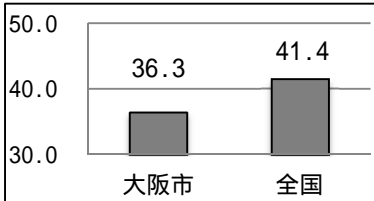
生

国語の勉強は大切だと思っている  
(肯定的回答 大阪市:84.2% 全国:88.8%)



## 表現の仕方について捉え、自分の考えを書くことに努力が必要です

### 比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く問題の正答率

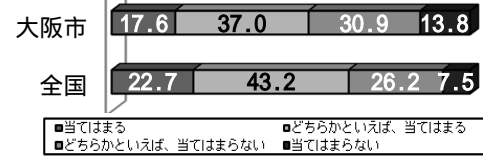


比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く問題(B[1]三)

肯定的な回答が全国を下回っています

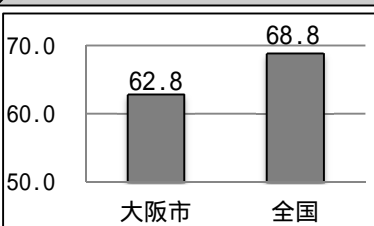
生

自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている  
(肯定的回答 大阪市:54.6% 全国:65.9%)



## 目的に応じて必要な資料を選び、適切に情報を読み取ることが必要です

### 必要な情報を集めるための見通しをもつ問題の正答率

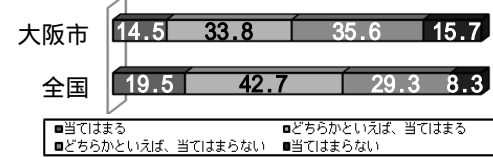


興味をもってもらえると考えた理由を書く問題(B[3]三)

肯定的な回答が全国を下回っています

生

目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている  
(肯定的回答 大阪市:48.3% 全国:62.7%)



## 学校で

- ・ 複数の資料から適切な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く力を育みます。
- ・ 言語活動の充実を図り、他者と交流することで自分の考えを深める力を育みます。
- ・ 学校力UPベース事業(習熟度別少人数授業)を通して、学習への意欲を高めるとともに、個に応じた指導を進めます。
- ・ 「学習教材データの配信」などを活用し、漢字や語句の意味など、基礎的・基本的な事項の定着や知識を活用する力を育みます。
- ・ ICT機器の活用により、視覚的に分かりやすい授業を行い、子どもが教え合い学び合う協働的な学びを進めます。

## 家庭で

- ・ 日常生活における様々な言葉において、漢字を適切に使って書くようにしましょう。
- ・ 読書習慣をつけ、様々な文章に触れる機会を増やしましょう。
- ・ 地域の図書館やインターネットなど様々な所から情報を収集する機会をつくりましょう。

## 効果があった取組例

- ・ 授業では「めあて・流れ・まとめ」を掲示し、生徒に学習過程を把握させるようにしています。
- ・ 「学習教材データの配信」を活用した個に応じた教材で基礎・基本の定着を図っています。
- ・ 要約などの書く活動や、考えを交流する活動を定期的に行い、書く・話す習慣を付けています。
- ・ 習熟度別少人数授業を計画的に取り入れることで、個に応じた指導の充実を図っています。
- ・ ICT機器を活用したプレゼンテーションなどの表現活動を通して、表現力を高めています。
- ・ 学校図書館を充実するとともに、調べ学習や読書を促す取組を行い、読書習慣を付けています。

大阪市の取組

「学習教材データの配信」(P.40)「学力向上UPベース事業の実施」(P.41)  
「主体的・対話的で深い学びの推進」(P.42)「ICTを活用した教育の推進」(P.44)  
「学校図書館活性化事業の実施・学校図書館活用推進事業の実施」(P.44)

## 課題と指導のポイント

調査問題の中で大阪市の子どもたちの平均正答率が特に低い問題  
 全国と比べて平均正答率の差が大きい問題  
 大阪市として継続して課題が見られる問題

### 【国語 A】(主として「知識」に関する問題)

#### 課題 文脈に即して漢字を正しく書くこと

- 9ー **設問の概要** 漢字を書く。1 組織の**キボ**を大きくする。〔正答率 大阪市:55.3% 全国:62.8%〕  
 漢字を書く。2 雨で運動会が**エンキ**になる。〔正答率 大阪市:53.0% 全国:62.3%〕
- 学習指導要領における領域** 〔第2学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

#### 指導のポイント

##### 日常的に漢字を書く学習をする



漢字を書くことの指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を得させ、文脈に即して漢字を書くように注意しながら学習させる必要がある。また、「話すこと・聞くこと」の学習や、他教科等の学習の中でも同音の漢字や形が似ている漢字などの間違えやすい漢字について意識させるようにすることが大切である。漢字を書く力を養うためには、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣を養う必要がある。そのためには、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けることが有効である。



定着しにくい漢字や間違いやすい漢字について、意識をもって読み書きできるように指導しましょう。

#### 具体的な指導事例

既に学習して漢字について、次のようなものの読み書きをまとめ復習する。  
 ア 学習場面や日常生活で使用頻度が低いと思われるもの  
 イ 形が似ている字や、偏や傍の一部が共通している字があるもの  
 間違っただけのものについて、どのような点で間違っただのかを考える。

#### 課題

#### 事象や行為などを表す多様な語句について理解すること

- 9五 **設問の概要** 話し合いの記録として適切な言葉を考える。〔正答率 大阪市:31.0% 全国:35.8%〕
- 学習指導要領における領域** 〔第1学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

#### 指導のポイント

##### 多様な語句・語彙の指導を工夫する



事象や行為などを表す多様な語句を、生活の中での様々な場面や状況に応じて、適切に使うことができるようにする必要がある。例えば、本設問のように学校生活の中での話し合いなど具体的な場面を取り上げ、その場の状況に応じた適切な言葉について考えたり、調べたりするなどの学習活動が有効である。その際、漢語などを用いて短い言葉で表す方がよいのか、文や文章を用いて丁寧に表す方がよいのかなど、目的や場面を踏まえて考えさせることが大切である。



普段から、「自分が使ってみたい語句」をノートに書き留めておき、その中から、自分が使ってみたい語句を一つ取り上げ、スピーチをして紹介し合うとよいですね。

#### 9の五

次は、校内でのあいさつを活発にするための取り組みについての【話し合いの記録】です。「活動案内案」の「2」については、今回は結論が出なかったため、あとでもう一度話し合うことになりました。□□に当てはまる言葉を、漢字三字以内で書きなさい。

【話し合いの記録】

校内でのあいさつを活発にするための取り組み	
活動内容案	結果
1 標語やポスターの募集と掲示を行う。	可決
2 登校時間に校門の前であいさつや呼びかけを行う。	□□
3 下校時間に校門の前であいさつや呼びかけを行う。	否決



【国語 B】(主として「活用」に関する問題)

課題

表現の仕方について捉え、自分の考えを書くこと

1三 設問の概要

比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く。

〔正答率 大阪市:36.3% 全国:41.4%〕

学習指導要領における領域

〔第1学年〕 B 書くこと C 読むこと 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

指導のポイント

根拠を明確にし、表現の技法についての知識を生かして自分の考えを書けるようにする



文学的な文章を読んで、感じたことや考えたことを書く際には、なぜそのように感じたのか、文章のどこからそのように考えたのかなどについて、根拠を明確にして書くことが大切である。

その際、比喩や反復などの表現の技法についての知識を生かすなどこれまでの学習を踏まえるように指導することが重要である。例えば、文章を読んで心に残った言葉や文、感想などをノートに書き留めておき、それを基にしてペアやグループで交流する学習活動が考えられる。

【本の紹介カード】

自分らしさって何だろう……

古道具屋を営む家に生まれた仲のよい三姉妹。でも、麻子(私)は、自由奔放な妹の七葉との違いをいつも感じています。そのような中で少しずつ自分らしさを見付けていく麻子の成長の物語です。

スコレ No.4 宮下奈都

比喩を用いた表現も素敵です!

1三 青山さんは、「本の紹介カード」にある「比喩を用いた表現に着目して、『本の一部』を読み、感じたことや考えたことなどをあとの『読書の記録』に書いています。あなたなら『読書の記録』の心に残った一文と感想にどのようなことを書きますか。

課題

必要な情報を集めるための見通しをもつこと

3三 設問の概要

アンケートをとる対象と質問内容、その質問についての回答を基にした内容を載せることで興味をもってもらえると考えた理由を書く。

〔正答率 大阪市:62.8% 全国:68.8%〕

学習指導要領における領域

〔第1学年〕 B 書くこと

指導のポイント

情報の提示の仕方やその効果について考え、見通しをもって必要な情報を集められるようにする



自ら課題を決めて文章を書く際には、目的や意図を明確にし、必要な情報を集めながら自分の考えをまとめるように指導する必要がある。その際、どの情報を提示すれば伝えたい事柄が明確に伝わるのか、提示することでどのような効果が期待できるのかなど、見通しをもって情報を集め、整理するように指導することが大切である。例えば、社会生活に関することなどについて、集めた情報を根拠にして自分の考えや意見を書くなどの学習活動が有効である。

具体的な指導事例

小学校6年生に向けて「『中学校の生活』を紹介する資料」を作成する。



どのように情報を集めて、どのように提示すれば効果的なのかについてグループで検討し、よりよい情報収集の方法について考えたり、具体的な提示の仕方について互いに助言し合ったりするように指導することが大切ですね。

中学校の1年生が小学校の頃より難しくなったと感じている教科についてアンケートをとり、出された教科名と具体的な勉強の仕方を表にして載せるとよいと思うな。6年生にとって役立つ情報なのではないかな。

アンケートで出された教科名を全部載せるのではなく、上位三つに絞って載せた方がインパクトがあるのではないかな。また、勉強の仕方については、生徒に聞いてもよいけれど、教科の先生に聞いて載せた方が説得力があるのではないかな。



それらの情報に触れることで、中学校での勉強に対する心構えができるということだね。情報の示し方については、教科の先生の似顔絵に吹き出しを付けて、その中に教科名とアドバイスを書くという工夫をするのはどうかな。

授業の改善・充実を図る際の参考事例

「平成29年度全国学力・学習状況調査を踏まえた授業アイディア例」P.3~8  
国立教育政策研究所ウェブサイト <http://www.nier.go.jp/jugyourei/h29/idea-mlang.html>